

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和5年4月4日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670600164
法人名	有限会社 花
事業所名	ふれあいホーム花
所在地	阿久根市西目6283-2 (電話) 0996-72-7171
自己評価作成日	令和5年1月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3 F 302号
訪問調査日	令和5年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に基づいた行動。優しさ、温もり、楽しみ、ふれあい、美味しさ。これを追求している。

私たちは認知症介護を実践している。管理者の出身地で開設しており、入居者の方も親戚であったり、知り合いであったり、小さい頃からよく知る人たちである。また、ご家族も近所であったり、知り合いであったりする。だから、より親身になれる。

理念の最初に、優しさ、を謳っている。まず、なにより優先することである。人対人の付き合いで、残された余生をなんの心配もなく、楽しんで、語らい、地元の魚・食材を食べ、満足できる人生を送られるよう、日々支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、阿久根市の中心部から4km程離れた海辺に近い自然豊かな西目地区の一角に平成18年に設置されており、広い敷地には桜をはじめ多種の樹木や草花が植えられて四季を感じながら平穏に暮らせる環境である。

開設以来、地域との円滑な交流に取り組んでおり、校区のイベントへの参加や散歩時の会話、住民からの認知症ケア等の相談対応、海・農産物を頂くなど良好な関係が築かれており、小学校からは花の苗を頂いたり障害者施設への援助や清掃を依頼して交流に努め、災害時には住民の避難場所としてホームを開放している。コロナ禍の為、地域のイベントの多くが中止され、ホームの行事も利用者と職員とで実施している状況が続いているが、収束状況を確認しながらドライブや外食等による交流も徐々に再開したい意向である。

管理者及び職員はホームの理念に「優しさ、温もり、楽しみ、ふれあい、美味しさ」を掲げ、利用者の誇りや尊厳を大切に、その人らしい生きがいのある暮らしの支援に取り組んでいる。日頃から利用者や家族の意向の把握に努め、職員会議等で協議して改善を図っており、アンケートの結果からも家族の信頼度の高さが窺える。

管理者および職員は気軽に意見を言い合える良好な人間関係を築いており、日頃の業務の中や毎月の職員会議、ミーティング時に、また必要に応じて個別面談も実施して意見や要望を出し合って改善を図っている。研修の実施やケアへの助言を日常的に行い、勤務シフトには休憩時間の確保や有給休暇の取得、個人的な事情も十分配慮するなど働きやすい環境作りに努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	施設内にあらゆる個所に理念を掲示しており、職員一人一人が常に意識づけるように心掛けている。	ホームの理念に「優しさ、温もり、楽しみ、ふれあい、美味しさ」を掲げ、玄関やリビング等に掲示しパンフレットにも記載して周知を図っている。人格や尊厳を大切に笑顔に満ちたその人らしい日々が過ごせる支援を常に心掛けており、日頃の業務の中や職員会議等で振り返りを行って理念に沿った利用者主体のケアに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍のため、地域での行事への参加はできていないが、施設周囲の清掃、近所の方にお会いした際のあいさつ等行い、交流を図っている。	自治会に加入し回覧板等で情報の把握に努め、イベントへの参加や買い物、散歩時の会話、住民から魚や野菜等の頂き物をしたり、小学校から花の苗を頂いたり、障害者施設への支援と清掃の依頼、住民からの相談対応など良好な関係を築いている。コロナ禍により地域のイベントの多くが中止され、ホームも外出や外食等による交流は控えているが収束状況を把握しながら、徐々に再開を検討している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	職員同士での話し合い、勉強会を通し理解を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>施設職員、ケアマネージャー、市職員などと話し合い、意見や助言をもらいながらサービス向上に取り組んでいる。</p>	<p>会議は定期的（年6回）に開催しているが、コロナ禍に配慮して書面での会議が続いている。ホームの現況や行事、感染症対応、身体拘束、アクシデント等について報告し、改善に繋げている。今後はコロナ禍の収束状況を把握しながら対面での会議開催を予定している。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>市の情報等、担当部署からのメールなどで情報共有している。</p>	<p>阿久根市役所の窓口に出向いたり電話等で介護保険や各種制度、コロナ禍に関する協議等を行い助言や指導を貰うなど、日頃から協力関係を築いている。市からのメールによる情報の把握やズームでの研修等にも参加して、運営やサービスの向上を図っている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束ゼロを実践している。職員による見守り強化勉強会での理解を深めている。生命にかかわるときには家族の同意、管理者指示の上、実施している。</p>	<p>「身体拘束等適正化のための指針」を整備し委員会も3か月毎に開催しており、研修や振り返りの実施で認識を共有している。スピーチロックを含む不適切な言動には、その都度助言し合って改善に取り組む、不安定な状況の利用者には対話や散歩（園庭の植物と一緒に愛でる等）で安定を図っている。身体拘束や高齢者虐待の認識を深めるために職員の自己評価の実施を検討中である。居室に人感センサーの使用は無い。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>身体的虐待がないか、入浴介助者により確認をしている。勉強会、マニュアルで理解を深め職員同士で注意しあっている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>定期的な勉強会で、理解を深めてようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居際、ここに説明し、同意を得ている。不安や疑問などがある場合は詳しく説明している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ご意見箱の設置や面談、訪問、電話での連絡などの際、意見や要望を聞いている。</p>	<p>利用者の思いは日頃の会話や表情、仕草等で汲み取り、家族からは面会や電話、LINE、手紙等で要望をもらい、また、毎月利用者の状況を詳しく報告し「花だより」も送付して気軽に言い易い雰囲気づくりに努めている。出された意見等は職員会議等で協議して改善に繋げている。中止している家族会の再開を検討している。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>管理者は職員と信頼関係を築いており、日常的に職員の意見や提案を聞いている。</p>	<p>管理者及び職員は業務の中や申し送り、職員会議時に物品購入の要望やケアに関する意見等を出し合い、また、個人面談も実施しており、内容によっては法人本部とも協議しながら改善に努めている。日頃からケアへの助言や研修を実施し資格取得へのバックアップにも努めており、勤務シフトには休憩時間の確保や有給休暇の取得、個人的事情にも配慮する等、働きやすい職場づくりに取り組んでおり信頼関係が築かれている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>管理者は職員の努力や勤務状況も把握し資格取得の際も向上心を持って働けるよう支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>ホーム内勉強会の年間計画を作成し、定期的な研修の機会を設けている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>新型コロナウイルス感染の恐れもあるため、他との交流は控えている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報提供者にて得た情報を共有しADLの把握をするために会話を増やし積極的にかかわり、信頼関係を築いていくよう務める。その都度スタッフ間での情報共有を行う。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の情報提供者より本人や家族に要望や不安なことを伺い、施設の取り組みを伝え不安を取り除けるように努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態把握を行い、医療や訪問歯科など家族の意見もうかがいながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	信頼関係を築き、できることは見守り、介助が必要な場合は介助をし生活の質を高めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連携はこまめに行い、様子を伝え家族との電話も可能である。毎日の出来事を記入し家族に送っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスのため様々なイベントが中止しているため散歩の時など近所の方とのかわりを大切にしている。	利用者毎の馴染みの状況を共有し、家族の意向も確認しながら支援している。感染予防に配慮しながら家族、友人等との面会や電話での交流、通院、墓参、移動販売車での買い物、周辺の散歩等を個別に支援しており、帰宅願望の強い利用者には自宅を見に同行することもある。電話や手紙の取り次ぎに努め、写真を添付した「花だより」や毎月のお便りでも生活状況を伝える等関係の継続に努めており、携帯電話を所有している利用者は日常的に馴染みの人との会話を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が協力し合い、一緒に生活をしていることで安心できる関係となっている。不安定な時にはスタッフが間に入る。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談できるよう、退所時には連絡先を伝えいつでも連絡が取れるよう安心を与える体制を整えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時に本人や家族から身体状況や好きなもの、趣味、意向等を聞き、思いの把握につなげている。入居後は日々の会話や表情等で知りえた情報を職員間で共有し思いに沿った暮らし方を検討している。	利用者個々の思いを日頃の会話や仕草、表情等で汲み取り、その人らしい笑顔や生きがいのある暮らしとなるよう家族の意向も確認しながら支援している。選択肢の提示や声掛けの工夫で自己決定を尊重し、趣味（カラオケ、カレンダーのぬり絵、園芸他）や家事の手伝い等の取り組みもプランに反映させて支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の面会時やモニタリング時に聞き取りを行うなどし、これまでの生活についても把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態変化を観察し記録に残し、必要時には連絡ノートやカンファレンスを通して職員間で情報共有し現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向、アセスメントをもとに介護計画を作成している。状態が変化したときはその都度本人、家族、職員に話を聞き、介護計画の見直しを行っています。	日頃から本人・家族の思いの汲み取りに努め、主治医の指示やモニタリング及びカンファレンス時の意見を基にケアの方法や楽しみごとにも配慮した介護計画を作成している。実施状況は各チェック表や業務日誌等で共有し、状態に変動が見られた際は計画を実態に沿って変更しており、内容は家族にも説明し了解を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態について記録に残し、職員が気づきや工夫を連絡ノートを勝義職員間で情報を共有しながら実際の介護や介護計画の稲生氏に活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診等、家族が付き添えない状況にある場合、職員が同行しその時々合った対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染対策に伴い、地域行事への参加を控えているが、以前は地区運動会や盆踊り、鬼火たき等に参加し地域との交流をしていた。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の訪問診療を行っている。他科受診の必要があれば受診を行い、本人や家族の希望があれば月2回歯科往診での診療も可能である。	利用者毎に病歴等を把握し本人・家族が希望する医療機関での治療を支援しており、協力医療機関や入所前からの医療機関での治療を継続している。主治医による定期的な訪問診療（月1回）や訪問歯科（月2回）が実施され、他科受診は家族と協力して同行するなど適切な医療が受けられている。看護師7人が在職しており衛生や健康管理を徹底し、協力医療機関との連携も十分で利用者及び家族の安心に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>毎日、お一人おひとりと向き合い、あいさつ、声かけを行い、バイタル測定を行い、気になる変化等あれば随時、看護師に報告相談し、適切なケアができる体制になっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>通常は協力医療機関による往診を行い、重症化の場合、医師に相談をし、専門医療機関への紹介や入院など支障なく行われる。また、連携室との情報共有や協力体制が整っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居の際、家族へ終末期看取りについて説明を行う。ホームでできることを支援し、急変時、また重度化など変化があった場合、家族の希望を確認した上で必要に応じ医療機関への入院も勧めている。</p>	<p>重度化や看取りの対応については入所時や病状の変化に応じて本人や家族に説明して理解を得ており、可能な限り利用者や家族の意向に沿ってチーム体制で取り組んでいる。これまで看取りを実施したこともあるが、原則看取りは行わず医療機関や特別養護老人ホーム等を紹介する方向である。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>沈着冷静にバイタル、意識、呼吸等の確認を素早く行う。その後、救急車の要請、救急車が到着までの救命処置を行うことができるよう、勉強会を不定期に行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回、消防訓練（夜間想定）を行い、利用者の安全を第一に避難ができるようにマニュアルを作成し職員が熟知し、意識を高め地域とも協力体制にある。</p>	<p>年2回（本年はコロナ禍で消防署立ち合いは無い）夜間発生も想定した火災や台風、地震対応の訓練を消防設備業者の協力を得て実施し、避難や通報、消火器の取扱いの研修も行っている。津波対応の訓練を地域の人と実施し、停電対策として竈を準備中である。スプリンクラーや自動通報装置が設置され、災害時には住民の避難場所としてホームを開放しており災害時の食糧や飲料水、介護用品等は10日分程度備えている。BCPは作成中である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
riyou					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに優しい声かけを心がけており、トイレ誘導や入浴介助も同じように、それぞれの利用者の方にあった対応を常に心がけている。	人格の尊重やプライバシー確保、守秘義務については、研修の実施やケアの振り返り等で認識を共有し、利用者の思いや特性、習慣も大切にケアを心掛けています。入室時は声掛けやノックを励行し、衣服の選択や余暇の過ごし方も選択肢の提示や自己決定し易いような働きかけに努めている。排泄や入浴時のケアは声のトーンや羞恥心にも配慮し、利用者に関する帳票等も事務室で適切に管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	服選びなど、季節に応じた服をいっしょに選び、声かけをし、何をどうしたいのか希望を聞き自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日一人一人の方のペースに合わせて、部屋で休んでいただいたり、レクレーション（ラジオ体操や口腔体操、散歩など）一人ひとりの要望にできるだけ沿うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	美容師免許を持っている職員に髪を切ってもらっている。髪染めなども定期的に行っており、入浴時など、服を選ぶときは本人が選び、その人らしい身だしなみを心がけている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	パン作りや料理の下準備など、利用者の方といっしょに作り、食事職員といっしょに食べ、後片付けも利用者の方といっしょに行っている。	利用者の好みや形態、栄養バランス、代替品等に配慮し頂いた野菜等も活用しており、利用者に応じた介助をプランにも反映させている。おせちや敬老会、クリスマス等の行事食や、ウニ祭りのうに井、伊勢海老、利用者との手作りのおやつ（クレープ、パン、甘酒他）、誕生日のケーキ等、季節や地域の行事にも配慮して食事が楽しみとなるよう工夫しており、利用者も下ごしらえや片付け等を楽しみながら行っている。コロナ禍に配慮して外食や家族との会食は控えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	とろみやキザミ食など、利用者の状態を把握し、食事の量や水分量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月に2回、歯科の訪問診療があり、定期的に治療、口腔ケアを行っている。毎食後の歯磨き、義歯洗浄も行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表に記入しており、自分でできる場所は見守り、一人ひとりのトイレの声かけや誘導、介助を行い、特に排泄後の確認は大切である。	利用者毎の排泄リズムをチェック表で把握し、心身の状態や羞恥心等に配慮しながら昼間は可能な限りトイレでの排泄を支援している。夜間のみリハビリパンツやポータブルトイレを使用する利用者もあり、介護用品の消費が減少するなどの改善が見られている。ポータブルトイレは毎朝洗って干す等衛生面に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、適度な運動をし、10時のおやつの際は、牛乳など乳製品を出している。排便が確認できない時は、主治医と相談し、薬の調整など便秘予防に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している</p>	<p>入浴日は決めず、体調に気をつけ、その方の好みの温度調整をし、気持ちよく入浴していただいている。</p>	<p>利用者の心身の状況に配慮しながら週3回の入浴を基本に、状況によっては清拭、シャワー浴、2人介助も行いながら清潔の保持に努めている。温度や時間、入浴剤の選択、同性介助等は意向に沿って柔軟に対応し個浴で気持ち良く楽しんでほしい、入浴後は水分補給や皮膚疾患の手当等を支援している。入浴をためらう利用者は現在はいない。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>心地よい空調にし、安眠を妨げない、照明にしてゆっくり休んでいただいている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>排便の有無、体調の変化等記録を下に、月1回、往診時に医師へ報告するようにしている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>利用者様に応じて家事の一部をお手伝いしていただいている。すぐ読めるように新聞、雑誌をホールに置いている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>コロナ禍の中で、外出がなかなかできないため、天気の良い日は園庭に散歩に出かけている。</p>	<p>コロナ禍で外出計画も十分には実施出来ない状況が続いているが、利用者の状態に応じたケアで園庭や周辺での日光浴や散歩を日常的に実施し、墓参や他科受診時には街並みや風景を車窓から楽しんでいる。外出は利用者の楽しみ事であるため、収束状況を確認しながら徐々にドライブや季節の花見などを再開したい意向である。室内での軽い体操やゲーム、季節の作品作り等、工夫してリフレッシュに努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	私物購入の際は家族の了解の上に購入している。		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	ご家族の迷惑にならない時間帯に電話するように配慮を心がけている。年賀状を写真入りでホームよりご家族へ送っている		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	季節の花を飾ったり、年中行事に合わせ、飾り物をしたりと皆さんが楽しめるようにしている。温度、湿度調整をし過ぎしやすい環境作りをしている。	利用者が昼間の殆どを過ごすフロアは、明るく開放感に満ちておりウッドデッキも設けてある。随所に活花や季節感ある利用者の作品、イベント時の写真等が飾られ調理の音や匂いも伝わるなど、家庭的な雰囲気である。テーブルやマッサージ機、加湿器、空気清浄機等が利用者の動線に配慮して置かれ、清掃や空調、衛生管理を徹底して快適に過ごせる環境となっている。アニマルセラピーの猫（7匹）はトイレの躰や害虫駆除等を適切に行っており、利用者はペットとして心を和ませている。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	部屋、トイレ、移動の動線、空調の位置等を考え、利用者様の希望に添えるようダイルームの席の配置をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>毎朝、換気をし、室内清掃を行っている。収納された衣服や肌着など取り出しやすいように工夫している。お気に入りの写真立て、ご主人の遺影、鏡など身近に飾っている。</p>	<p>フローリングに腰高窓の居室は余裕ある広さで明るく、ベッド、エアコン、タンスが備えてあり、利用者の意向を確認しながら清掃や整頓を日常的に支援している。利用者は自宅で愛用していた寝具やテレビ、家族写真、遺影、小物等を持ち込み、自身の作品や長寿祝い頂いた品物等も飾って憩える居室となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内部は場所毎にわかりやすく、ご自分の部屋がわかるように表示も大きく看板様に工夫し、安全な居住生活を送れるようにしている。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない